



すぎのこ 12月号

<http://www.shokei-gakuen.ac.jp/kids/>



第9号

平成30年11月29日
幼保連携型認定こども園
尚綱大学短期大学部
附属こども園

1年で昼が一番短いのは、ご存知のとおり冬至の頃ですが、熊本では1年を通して一番日没が早い時期は、11月末です。12月に入ると、日没は少しずつ遅くなるとともに、夜明けがもっと遅くなり、冬至を迎えます。夜が長く、自然の厳しさを感じるこの時期だからそこ心も体もほっこりしたくなるものです。人の温かさや家族の絆を感じるクリスマスやお正月などの行事がこの時期にあるのは、偶然ではないはずです。昔から洋の東西を問わず、人々はこの時期は人のぬくもりを求め、家族のすばらしさを感じてきたのではないのでしょうか。

ご家庭でも夜長のこの時期に、命の大切さ、家族の温かさ、ひいては人のつながりについて語り合っていたら子どもたちの心にもしみこんでいくのではないかと思います。



～12月の話～ ～命のはなし～



尚綱こども園 園長 後藤 誠司

先生に起こった不思議なでもちょっと悲しいお話をします。園長先生は、何年前かに、ハムスターのペットを飼ったことがあります。

ハナは平成22年の5月21日に我が家にやってきました。生まれたてで、大変かわいらしいハムスターでした。ハナはひまわりの種が大好きでした。大変かわいがっていたハナでしたが9月の中ごろに病気になるてしまいました。お医者さんに連れて行っても、薬を飲ませてもハナはどんどん弱っていくばかりでした。

そして、9月の終わりごろ、朝方、先生の奥さんの手で死んでしまいました。先生や奥さんは、ハナの命の灯火がだんだん小さくなる様子を見ながら、ぼろぼろぼろ涙を流しました。先生たちは、ハナの大好きだったひまわりの種とハナを箱に入れ、庭にお墓を作りました。たった4ヶ月しか一緒になかったけど、ハナがいなくなった寂しさは、思った以上でした。新しいペットを飼う気持ちなどわきませんでした。

すると、ハナと出会ってちょうど1年ぐらいたったある日、庭のハナのお墓のあたりを見ると何か植物が芽を出していました。調べてみると、どうもヒマワリの芽のようです。

その植物は、どんどん大きくなりました。朝、起きて窓を開けるたびに成長していて、見るたびに元気になりました。ハナが先生たちに「さびしがらないで！元気でがんばって」といっているんだね。と奥さんと話し合いました。そして、2ヵ月後ぐらいになるとヒマワリはこんなに大きく育って大きな大きな花を咲かせました。先生たちはとても元気になりました。



さあ、みなさんはこのお話を聞いてどう思ったでしょうか。

園長先生は、みなさんに「命」について考えてほしいのです。お話したようにハナの命はたった4ヶ月でなくなってしまいました。でも、ハナを大好きだった園長先生たちは、たった1本咲いたヒマワリの花を絶対、ハナからのプレゼントだと思って元気づけてもらい、8年も経ってからもこうやって皆さんにお話する機会ができました。

ちいさなハムスターの命でさえ、亡くなった後でも、こうやって沢山の人たちとかかわり、色々なことを教え、考えさせてくれます。

まして、みなさん一人ひとりの命は、ハムスターのハナなんかよりもっとたくさんの人たちから大事にされ、守られているのです。

園長先生たちが、ハナをかわいくて仕方なかったように、みなさん一人ひとりが、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんにとっては可愛くて大切な人なのです。

さあ、その大切な人が、いやなことばでからかわれたり、意地悪をされたりしたらどんな気持ちがするでしょうか。自分が言われたと同じように感じるのはみなさん分かると思います。あのヒマワリの花を傷つけられたとしたら、園長先生は、自分が傷つけられた同じくらい怒ったと思います。

一人ひとりの命には、たくさん命とつながっています。誰かにいやな思いをさせることは、その命につながっているすべての人たちに同じことをすることだと考えてほしいのです。

自分の命が大切にされているようにお友達の命もしっかり大切にしていける。自分が大切にされているように、お友達も大切にしていかなければなりません。

ハナの命がそうだったように、皆さんの一人ひとりの命は、これから沢山の人たちに喜びや楽しみを与える命です。そう考えて、みなさんには、虫や草花の命などの自分の周りの命やこれから出会う命もしっかり大切にしていってほしいと思います。

